第３回「新スポーツ推進計画（仮称）」策定委員会議事要旨

１　日　時

令和３年５月１３日（木）１５：００～１６：３０

２　会　場

ＷＥＢ会議

３　出席委員

大友克之委員（委員長）、安田和夫委員、西本裕委員、増田和伯委員、渡邉丈展委員、堤卓雄委員、澤田勝之委員、野田正明委員、波賀野里美委員、那須史明委員、山本英弘策定部会副会長（オブザーバー）

４　会議の形態

非公開

５　議　題

「新スポーツ推進計画（仮称）」策定の方針について

６　議事要旨

（事務局）

・前回は、現行計画の評価・課題および項目に対する方針について議論した。以降、策定部会にて、新型コロナウイルス感染症による影響など社会状況の変化を加味しつつ、次期計画の方向性を再検討してきた。

・本日は、その方向性についてご意見をいただき、以降、計画本文の作成にとりかかる。

（渡邉委員）

・「ミナスポ運動（仮称）」という取組みは大変良い。ネーミングも分かりやすいと思う。

・学校体育の推進が地域スポーツの推進のなかで一体として取り組まれることもよい方向性と考える。

（増田委員）

・「学校体育の推進」が「地域スポーツの推進」に統合されたことに懸念あり。

・子供の体力低下という課題にあたり、学校の授業を活用することが効果的と考え

ており、学校体育の充実は重要。また、学校部活動についても休日の地域移行が取り組まれるが、次期計画の５年間ですべて移行するわけではない。

（事務局）

・継続して学校体育の充実に取り組んでいく。計画本文作成の際に、しっかりと記載する。

（澤田委員）

・子どもの体力低下は以前から課題とされており、対策の中核となるのは体育授業であると再確認した。その発展として、地域スポーツや部活動に繋がっていく。
・学校体育の推進から、幼児や保育園へ拡大した考え方については賛成。

（体育健康課）

・学校体育の推進を地域スポーツの推進と統合し、生涯スポーツの推進として、幼児から高齢者までを各課で連携しながら取組んでいくことが必要と考えている。

（西本委員）

・策定部会では、学校体育の推進という柱を残すのではなく地域スポーツと学校体育、学校体育と競技スポーツなど、他の柱との連携に取組んでいくことが重要とした。

（波賀野委員）

・休日学校部活動の移行先の一つとして取組んでいく総合型地域スポーツクラブとしては、学校体育の推進の統合は歓迎する。円滑な移行のため、管轄にとらわれず、中学部活動を所管する市町村に対し県から積極的に働きかけていく必要あり。

（大友委員長）

・成人のスポーツ実施率を向上させるには、企業と連携し、運動・スポーツを習慣化させるようなプログラムやイベントを仕掛けることが必要。

（渡邉委員）

・企業連携としては、ビジネスパーソン向けのレクリエーション指導者派遣や推進団体を増やす取組みを行ってきた。企業から各家庭等へレクリエーションが広がるなど効果的であり、今後より多くの企業へ展開していくための施策を計画に盛り込むことが必要。

（大友委員長）

・スポーツ施設でのＩＣＴ活用に関して、先日、無観客で開催したカンガルーカップでは、YouTube でライブ配信を行ったところ好評だったと聞いている。ＤＸは費用面で臆するところもあるが、工夫次第では予想以上の効果が出ることもあり積極的に試していくべき。

（増田委員）

・特にテニスは固定カメラで配信できるので負担は少なかった。今後、他のスポーツでの配信を検討していきたい。

（野田委員）

・インターハイ予選も無観客で実施されており、観戦が許可されている各学校１名の保護者が他の保護者のためにライブ配信した実例もあり、今後、検討が必要。

（安田委員）

・障がいのある人もない人も一緒に、スポーツを通じて交流を深める機会が少なく、こうした視点からの学校体育やスポーツイベントの充実が必要

（那須委員）

・ビジネスとして「観る」スポーツに関わりつつ、「する」スポーツに繋げるため、スポンサー企業へのバスケットボール教室にも取組んでいる。
・また、「岐阜のために戦うチーム」としてスポーツだけでなく伝統文化・観光の発信も行っていきたい。

（大友委員長）

・「みる」スポーツが少しでも「する」スポーツに繋げられれば、実施率の底上げになる。しかも、障がいの有無や言葉の違いに関わらず一緒に楽しめる仕掛けを考えていきたい。

（堤委員）

・スポーツの参加者がその実績や健康上の効果を目に見えて実感できるような仕組みがあるとよい。

（大友委員長）

・スポーツ実施率などのデータのとり方は検討していく必要あり。

（西本委員）

・スポーツ実施率の計測にＤＸが活用できないか。

・スポーツの各現場からＤＸの活用についてアイデアが挙がってくるとよい。

（大友委員長）

・策定部会ではその他どのような議論が行われたか。

（オブザーバー）

・ｅスポーツも計画のうえで考えていかなければいけないのではとの議論があった。

・子どもやビジネスパーソンと対象を限定するだけでなく、親子や高齢者と孫となど多世代で参加できる機会を提供することも良い結果に繋がる。海外でいうボールパークのような「観る」スポーツから多世代の「する」スポーツに繋がる機会があると良い。

・「ボッチャ」は健常者も楽しめるパラスポーツ競技で、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめる機会として活用できる。

（波賀野委員）

・「ミナスポ運動（仮称）」の推進が地域で定着するよう、総合型地域スポーツクラブとの連携の検討が必要。

・高齢者のスポーツ推進として、介護予防運動の機会創出事業を市町村から受託しているクラブも多いが、健康のため自ら運動する意識改革を目指す取組みへと発展させているところもあり、こういった活動の推進を計画に盛り込んで欲しい。

（大友委員長）

・従来は各団体等がそれぞれ懸命にスポーツ参加を推進してきたが、これからは連携して、これまで以上の成果を挙げられるよう取組んでいく時期がきたのではと考える。

以上